

日本の地質調査所の創設 The beginning of the Geological Survey of Japan

矢島 道子^{1*}
Michiko Yajima^{1*}

¹ 東京医科歯科大学教養部
¹ Tokyo Medical and Dental University

エドムント・ナウマンの業績を調査している中で、明治初期に創設された地質調査所は、現在の地質調査所とずいぶん異なっているもののように理解される。地質調査所は東京市赤坂区葵町（東京・赤坂の現在ホテルオークラの大倉集古館のあたり）に明治11年から大正14年まで同じ場所にあったが、その名称や帰属はめまぐるしく変わった。

1878 (M11) 内務省地理局の地質課。
1880 (M13) 地質課は内務省勸農局
1881 (M14) 地質課は農商務省農務局
1882 (M15) 地質課を廃し、
1882 (M15) 地質調査所を創立 (2月13日)。農商務省に帰属。

また、地質調査所には地質部、地形部、土性部などがあり、ナウマン、リーブシャー、シュット、フェスカなど多くの外国人技術者がいた。特にフェスカは長期間、地質調査所にいた。1890年には原田豊吉の著作“ Die japanischen Inseln. Eine topographische-geologische Übersicht ”とともに、フェスカの“ Beitrage zur Kenntnis der japanischen Landwirtschaft ”が出版された。フェスカのこの大著は前年に出版された「大日本帝国地産要覧図」の説明書として出版されたもので、その翌年の1891年には「日本地産論通編」という表題で和訳された。日本の農政の基本となり、特に戦時中に再翻訳された。

この奇妙な歴史的変遷の裏には何があったか考察してみたい。

キーワード: 地質調査所, エドムント・ナウマン, 原田豊吉, フェスカ
Keywords: Geological Survey, Edmund Naumann, Toyokichi Harada, M. Fesca